

大学における経験学習型リーダーシップ教育の 効果に関する研究

—ピア・フィードバックと内省が受講者のアイデンティティの変化に
及ぼす影響に着目して—

加藤 走

近年、経営環境のグローバル化やそれに伴う競争の激化から企業を取り巻く環境が大きく変化しており、日本におけるリーダーシップへの関心は、複雑な課題に直面する社会の変化の中で近年高まっている。企業においてはリーダーシップを発揮する時期の早期化と層の多様化の必要性が高まり、こうした流れから大学に対するリーダーシップ教育の要請が強まりつつある。

そうした流れを受け、企業におけるリーダーシップ開発手法として効果が高いと注目されていた経験学習を理論的基盤としたリーダーシップ開発方法を取り入れたリーダーシップ教育をカリキュラムに組み込む大学が増加の一途をたどっている。

そのように経験学習型リーダーシップ教育の実践の場が広がってきている一方で、リーダーシップ教育の効果検証に関する研究は非常に限られている。そこで、本研究では大学における経験学習型リーダーシップ教育が受講者に与えている影響を提示することを目的とし、この目的を達成するため、経験学習型リーダーシップ教育の中で行われるピア・フィードバックと内省が受講者のアイデンティティの変化に及ぼす影響を検討するという研究課題を設定し実証的に検証した。

本研究では、検証のためにリーダーシップ教育の受講者学生 280 名を対象に調査をおこなった。得られた回答結果に対して階層的重回帰分析をおこない、以下 2 点が示された。

まず、経験学習型リーダーシップ教育において、内省経験を得られた学生ほど、アイデンティティの発達が促されることが分かった。また、プログラムに主体的に取り組み、受講者からのピア・フィードバックを得た上で自己理解を深める内省を重ねることと、そうでない状況で自己理解を深める内省を重ねることでは、受講者のアイデンティティに与える影響が異なることが分かった。つぎに、経験学習型リーダーシップ教育における、ピア・フィードバックは受講者の内省を媒介してリーダーシップ・アイデンティティの発達を促していることが分かった。

本論文は 5 章で構成される。第 1 章では、企業や大学教育を取り巻く環境が大きく変化している時代において、リーダーシップ教育の重要性が高まりつつある社会的背景について述べた。

第 2 章では、本研究で実施した調査・分析の理論的背景となる概念について論じた。まず大学生のリーダーシップ教育研究の変遷を概観し、本研究をリーダーシップ教育研究として位置付けるために必要となる観点を整理した。次に、リーダーシップ教育の手法に関する先行研究を概観し、経験学習型リーダーシップ教育として「フィードバック」「内省」に着目することが重要であることを述べた。そして、リーダーシップ教育のアウトカムに関する先行研究を整理し、リーダーシップ教育研究としてアイデンティティの発達への着目が重要なテーマになっていることを述べた。

第 3 章では、本研究の主要な概念について用語の定義をおこない、本研究のリサーチ・クエスチョンを「経験学習型リーダーシップ教育におけるフィードバックや内省の経験は、受講者のアイデンティティにどのように影響を与えているのか。」とすることを述べた。そして、調査の対象、調査の方法、質問項目の設計について説明した。

第 4 章では、第 3 章で設定した仮説に基づき、質問紙調査の結果に対して階層的重回帰分析を

おこなった結果を示した。分析によって、経験学習型リーダーシップ教育における「ピア・フィードバック」「内省」と受講者のアイデンティティの変化の関連を明らかにし、実証研究の成果を示した。

第5章では、第3章と第4章で得られた知見を統合し、経験学習型リーダーシップ教育が受講者のアイデンティティの変化に及ぼす影響について総合考察をおこない、受講者のアイデンティティの発達を促す経験学習型リーダーシップ教育プログラムのあり方を提示した。アイデンティティの発達には、自己の理解を深める内省に加えて、他者について理解を深める内省が重要であることを示した。さらに、内省経験の効果はプログラム中の受講者同士の社会的な交流が重要な影響をもたらすため、受講者が積極的な社会的交流を多く経験できる設計が必要であることを示した。